

お茶農家の一年

「茶飲ん話し」
ちやの

⑥

お茶農家は、一年の間皆さんに安全で美味しいお茶を飲んでもらえるよう、農繁期には眠る間も惜しんでさまざまな管理作業を行っています。お茶農家の仕事の内容を学んでみよう。次回は、市内のお茶スポットを紹介します。

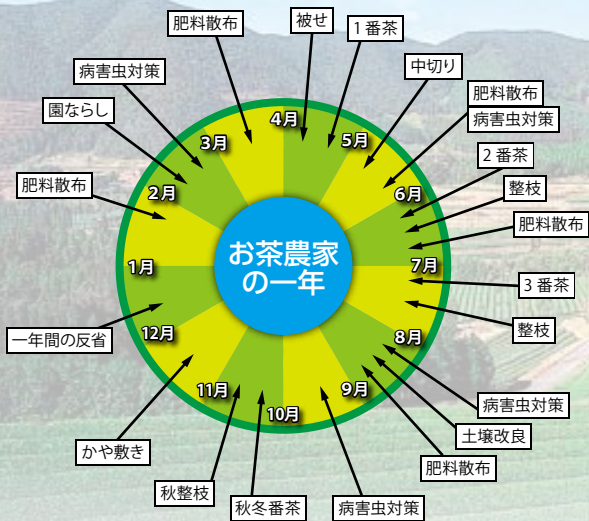
お茶の栽培管理は、機械化が進んでいますが、お茶の品質を高めるための被せ作業は今でも手作業で行い、多くの人を必要とします。使用する主な大型機械は南九州市の松元機工（株）で開発され、実用化されています。本市の茶業がこれまで発展したのは、機械開発抜きには語れません。



被せ



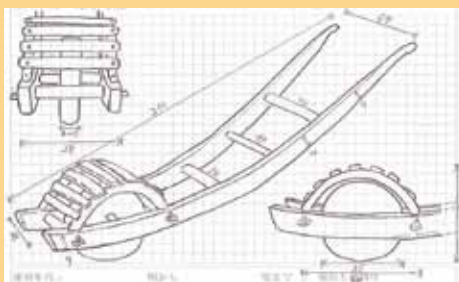
茶摘み



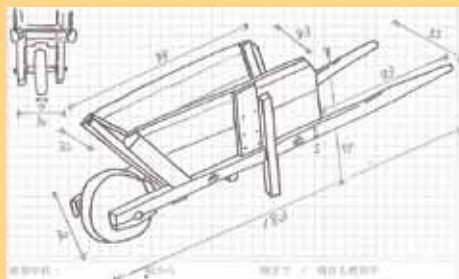
【主な作業内容の解説】

- ①肥料散布: 香り高く美味しいお茶を作るために茶園の間に肥料を撒く。
- ②病害虫対策: お茶の葉や枝を枯らさないよう害虫を駆除したり病気を防ぐ。
- ③防霜対策: お茶の新芽が霜の被害に遭わないよう夜に施設を稼働させる。
- ④被せ(被覆): お茶の品質を高めるために茶園を約一週間黒いネットで覆う。
- ⑤茶摘み: お茶は一年間に数回摘まれます。1番茶、2番茶、3番茶、4番茶、秋冬番茶。
- ⑥整枝: 次回摘まれるお茶の芽が揃って伸びてくるように茶園を整える。
- ⑦中切り: お茶が摘まれた後、茶園の枝を深く切ることで茶樹に勢いを与える。
- ⑧土壌耕耘: 健全な茶の根が育つように土の中の環境を整えるため深く耕す。

☆茶工場: 摘み取られたお茶は約4時間の製造工程を経て荒茶として問屋や市場に出荷販売されます。



◀ネコゲイマ(猫車)



◀ハコゲイマ(箱車)

顕娃歴史民俗資料館
れきみかんだより①
ネコゲイマ(猫車)と
ハコゲイマ(箱車)



昔の一輪車です。猫車は、たきを積みやすいように曲がった形をしていて、箱車は、土を運びやすいように箱の形をしています。昭和20年代頃まで使われていました。今でも、一輪車のことを「ネコ」と呼ぶのを聞いたことがありますか。

ネコゲイマ(猫車)と
ハコゲイマ(箱車)